

天災は忘れたころにやってくる

あなたの備えは万全ですか

今から80年前の大正12年9月1日は関東大震災が起きた日です。この日を「防災の日」と定め、災害に対する認識を新たにする日と位置付けています。この機会にあなたの防災対策を見直してみましょう。

市内で発生する可能性がある災害には、風水害、地震災害、航空機災害が考えられます。特に注意が必要なのは被害の規模からいって地震災害です。災害はいつどこで起こるか分かりません。また、被害の規模を予測できないのも災害の怖いところです。

まさかのときのために心構えを再確認してみましょう。

被害を最小限に

地震の発生を止めたり、予測したりすることはできません。日ごろから家庭、地域、行政で安全対策を行い、発生したときの被害を最小限にしたいものです。いざというときのための持ち物を準備したり、避難訓練や消火訓練、救命講習会に進んで参加したり、災害に対する認識を高めておくことも大切です。

家族・地域ぐるみで防災対策を

地震が起きたときの家族の役割分担や避難場所の確認、連絡方法などについて事前に話し合いを。また、自主防災組織など地域ぐるみでの行動が、スムーズな復旧活動につながります。



防災に対する認識を高めよう

市では、「防災マップ」「防災チェック読本」「地震に自信を（英語・ハングル語・北京語・ポルトガル語を併記）」などを総務課や行政資料室で配布していますので、家族や地域の防災会議などにぜひご利用ください。

家の中を安全に

家具や電化製品、照明器具などは、地震による転倒や落下の恐れがあります。壁などへ固定したり、高いところへ物を置かないなど防止策を。

建物や土地を手エック
建物の構造、地盤の強弱や周囲の地形などから、地震による被害を想定しておくことも大切。
非常持ち出し品を準備
持ち出し品が多すぎると避難時に支障が生じます。目安は男性で15kg、女性では10kgまで。

- 貴重品：現金(小銭も)・預貯金通帳・印鑑・健康保険証・免許証・権利証書など
- 救急医薬品：ばんそうこう・包帯・風邪薬・胃腸薬・鎮痛剤など

- 非常食：かんパン・缶詰(火を通さずに食べられるもの)・ミネラルウォーター・缶切り・栓抜



- 衣類：下着・上着・タオル・毛布・紙おむつなど
 - 懐中電灯・携帯ラジオ…予備電池も忘れずに
 - その他：マッチ・ライター・ろつてく・ビニールシート・ラップフィルム・ポリ袋など
- 防災訓練へ参加を積極的に参加し、災害時の行動を体得しましょう。



落ち着いて行動を(昨年の総合防災訓練)

災害が起きたら まず身の安全を

十分な備えをしたつもりでも、いざ地震となると慌ててしまつかもおそれません。災害が起きたらまず、身の安全を確保しましょう。

地震の心得10カ条

1 **まず身の安全を**
けがをしたら避難行動に支障が
です。テーブルなどの下に隠れ
たり、戸外では危険な場所から離
れたり、まず身の安全を確保しま
しょう。

具などの火を始末しましょう。

3 **戸を開けて出口を確保**

戸を開けたままでは、建物がゆ
がんで出入口が開かなくなるこ
もありですので、非常脱出口を確
認しましょう。

4 **火が出たら消火**

もし火災が発生しても燃え移る
前なら慌てず、落ち着いて初期消
火に努めましょう。

5 **外へ逃げるときは慌てずに**

慌てず落ち着いた行動を。外へ
逃げるときはかわらやガラスなど
の落下物に注意しましょう。

6 **狭い路地やブロック塀には**

近づかない

ブロック塀、門柱、自動販売機
などは倒れやすいので注意しまし
ましょう。

7 **山崩れ、がけ崩れに注意**

居住地の自然環境を十分に把握
しておきましょう。

8 **避難は徒歩で**

避難場所には徒歩で、避難の際
は荷物を最小限にしましょう。

9 **協力し合って応急救護**

地域の防災訓練などに参加し、
応急手当の仕方を学んでおきま
しょう。

10 **正しい情報入手**

うわさやデマに惑わされない。
テレビやラジオから正しい情報を

入手し、行動しましょう。

風水害に備えて



日本列島には毎年、多数の台風

が接近または上陸し、強風と大雨
によりたびたび大きな被害をもた
らします。台風は進路や威力など
を予測しやすいため、ニュースな
どで正確な情報入手し、家の周
囲の危険箇所をチェックして、安
全対策を行いましょう。また、狭
い範囲で短時間に多量の雨が降る
集中豪雨は、予想が困難でその威
力は計り知れませんが、決して油断
することなく、日ごろから十分な
対策を立てておきましょう。

防災についてくわしくは総務
課防災対策室 ☎ 20 15110
へお問い合わせください。

自主防災組織 地域の連帯感が不可欠

「自分たちのまちは自分たちで守る」「自分の安全は自
らが守る」という一人ひとりの心掛けが大切です。そ
こで市では地域の連帯感を高めるためにも、区・自治
会・町内会などを単位とした自主防災組織の設立を進
めています。

設立したいときは事前に打ち合わせを行ってくださ
い。必要に応じて総務課防災対策室の職員がお伺いし
ます。

設立が決まったら、必要な防災用資機材は市で購入
します。また、活動のための助成金を交付します。

設立してからは、災害時にどうしたらよいか話し合
い、自主的に訓練活動を行うこととなります。どのよ
うに実施したらよいか分からないときは総務課防災
対策室 ☎ 20-1510 へご相談ください。

吾妻北第2団地自主防災委員会



事務長 高橋規成さん



委員長 宮崎美佐男さん

わたしたちの団地の自主防災組織は平成13年4月に設
立。市から貸与された資機材は、集会所に保管してあ
りますが、現在、防災倉庫の購入について検討してい
るところです。

団地では、毎月第2土曜日に集会所で「おやじたちの
飲み会」を開いています。もう17、18年続いているん
ですよ。基本的に料理や酒は持ち寄り。片付けも自分
たちで。子ども会やほかのグループと交流会を開くな
ど、年代を超えた交流の輪が広がっています。その中
で、阪神淡路大震災にかかわった人がいて、「防災の必
要性」を考えるようになりました。そこでまず自分た
ちの地域は自分たちで守ろうと自主防災組織を発足す
ることになったのです。日ごろからコミュニケーション
が図られているので、すぐ話はまとまりました。困
ったときはお互い様ですから。

これからは、各家庭の状況、特に一人暮らしのお年
寄りを把握し、消火器や防災用資機材の点検や避難訓
練などを行っていこうと考えています。昼間家庭にい
ることが多い女性も積極的に参加してほしいですね。

いざというときのために、地域のつながりは不可欠。
これは短期間で築き上げられるものではありません。
継続することが大事だと思っています。今後は住民一
人ひとりの防災に対する認識を高めていくことが課題
です。